

長岡京跡右京三条二坊十五町出土の二彩陶器

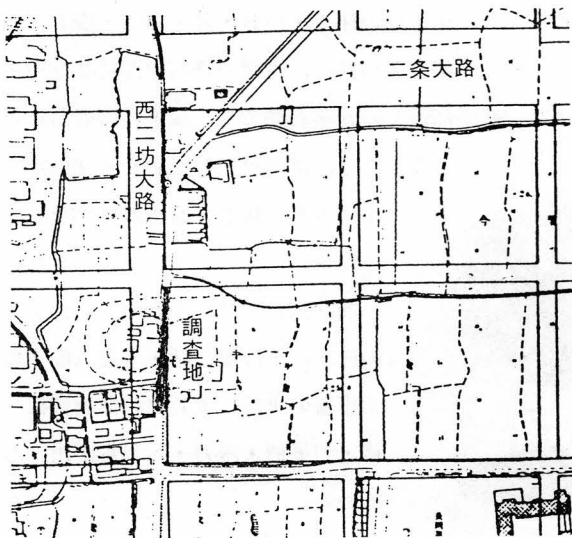
山口 博

1. はじめに

ここに紹介する資料は、長岡京跡右京第84次調査(7ANITT-6地区)によって出土した、二彩陶器片である。調査の概要については、すでに当調査研究センターの『京都府遺跡調査概報』第3冊のなかで概略報告しているが、^(注1)ここで出土した二彩陶器について、その後再検討を行い、この場を借りてその詳細について紹介したい。また、併せて長岡京跡出土の多彩陶器についても若干紹介する。

この資料の出土した長岡京跡右京第84次調査は、京都府が計画している都市計画街路(外環状線)の長岡京市今里地区における街路改良工事に伴い実施したものである。この長岡京市今里地区での発掘調査は、京都府教育委員会が昭和52年から実施してきたものを、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの発足とともに引き継いだものである。

京都府教育委員会が行ってきた発掘調査(長岡京跡右京第7・12・26次調査)^{(注2)(注3)}では、長岡京の西二坊大路と三条条間小路を検出し、長岡京が平城京型の条坊プランで造られていた



第1図 調査地位置図 (1/5,000)

ことを明らかにしたほか、弥生時代から飛鳥時代にかけての竪穴式住居跡・掘立柱建物跡や平安時代の掘立柱建物跡、古墳時代中期前半の今里車塚古墳の周濠等を検出した。なかでも、今里車塚古墳は、墳丘が削平されており、この調査によってその存在が明らかになったものである。墳形は前方後円墳で、墳丘裾には衣笠状木製品及び列柱を持ち、周濠内からは、円筒埴輪・朝

顔形埴輪・家形埴輪とともに、長岡京期の土器類が多量に出土した。

右京第84次調査は、当調査研究センターが京都府教育委員会から引き継いだ昭和56年度に実施したもので、調査地は長岡京市今里4丁目に所在し、長岡京右京三条二坊十五町に当たるとともに、今里車塚古墳のくびれ部に相当する。この調査では、古墳のくびれ部及び周濠の延長を確認したほか、南北溝や鎌倉時代の井戸等を検出した。また、くびれ部に位置する列柱を検出し、周濠内からは前回調査同様、多数の遺物が出土した。

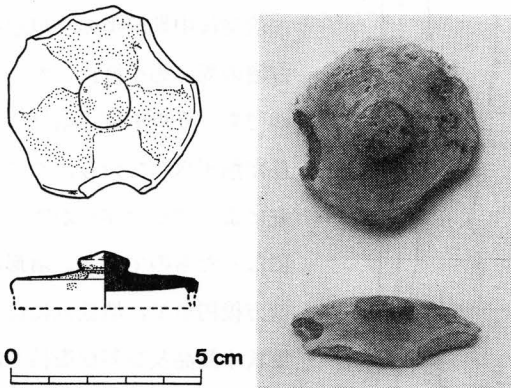
2. 遺物について

この二彩陶器は、平坦な天井部に宝珠つまみを付し、口縁部を下方にほぼ直に折りまげる小壺の蓋である。釉の残りはさほど良くなく、緑色の釉と淡黄色を呈する透明釉が部分的に残存しているのが観察できる。つまみ部分は、緑色釉が施されていたものと思われる。天井部は、外面に緑色釉のほか3か所に透明釉がほぼ等間隔で施されているのが観察できる。内面は、釉がほとんど失われており、わずかに施釉されていた痕跡をとどめるのみである。口縁部は、口縁部自身を大部分欠失しており、外面にわずかに緑色釉が残存している。口径・器高は、口縁端部を欠失しているため不明であるが、復元すると口径は4.7cm前後と推定される。つまみは、径1.4cmを測る。天井部外面にはヘラ切り痕を残し、回転などを施している。焼成は軟質で、素地の色調は淡黄褐色を呈する。胎土は、0.5~1mm大の石英・チャート等の砂粒を比較的多く含んでいる。

この二彩の小壺は、今里車塚古墳の北側周濠(SD1288)の下層埋土の底近くから出土した。出土位置は、周濠の中央からやや墳丘よりである。この周濠からは、長岡京期の遺物としては、土師器の椀A・杯A・杯B・皿A、須恵器の杯A・杯B・蓋・皿A・壺L・鉢・甕、緑釉陶器の椀等が出土している。特に、須恵器の鉢は、古墳の葦石の間に2個並んで据えられた状態で出土している。また、基底部近くの転落石間でも、須恵器の壺Lと

ともに、逆向けにした同タイプの鉢を中に入れた状態で須恵器鉢が出土している。

前回調査では、今回出土したもののほか、土師器の鉢・墨書人面土器、須恵器の平瓶、木製品の曲物底板・槽・刀子柄・木刀・人形等が出土している。^(注4)



第2図 遺物実測図及び写真

3. 長岡京跡出土の多彩陶器

現在、長岡京跡内では表1にあるとおり、今回紹介したものを含め計10件、出土点数にして14点の二・三彩陶器が出土している。そのうち、三彩陶器は、長岡京跡右京第96次調査で出土している小壺片2点と獣脚のみで、他はすべて二彩陶器である。ここで、他の二彩陶器について、以下、簡単に紹介したい。

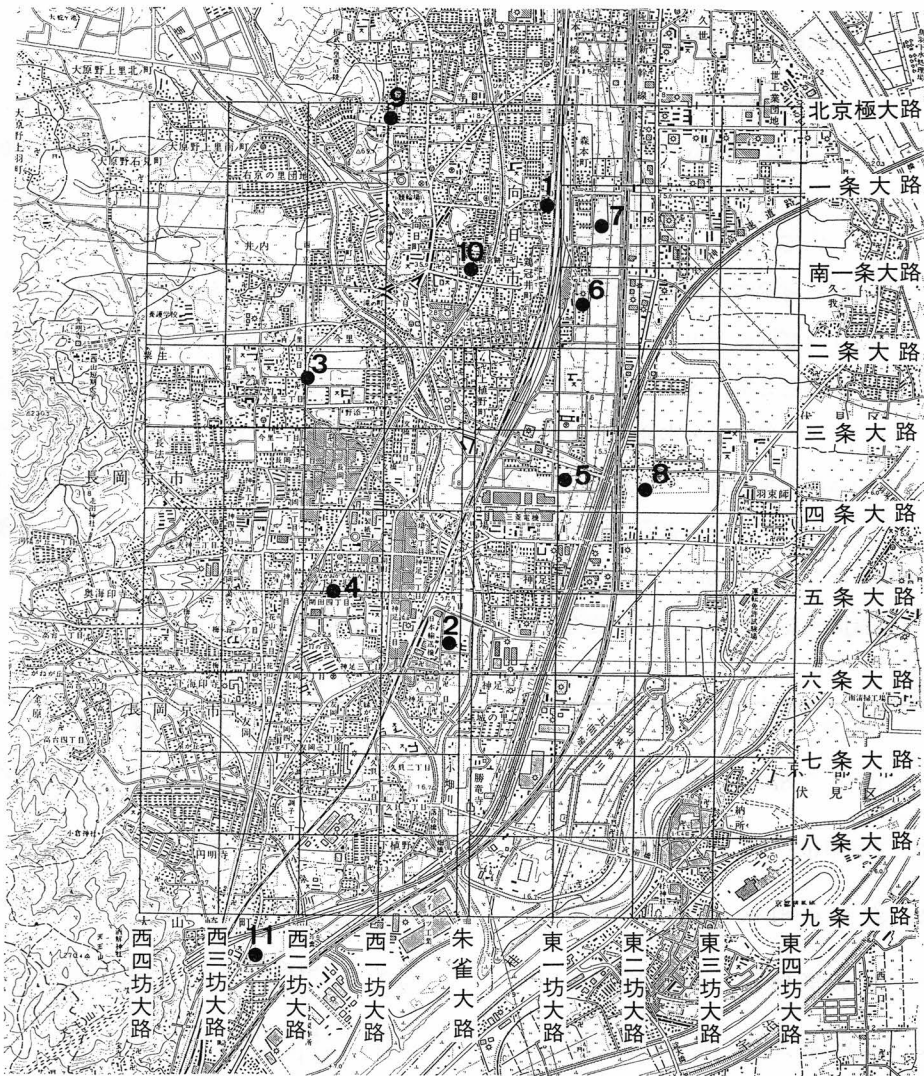
1の長岡京跡第87次調査^(注5)では、北西から南東へ流れる幅約10mの流路(SD8701)から二彩の小壺片及び同蓋が出土した。蓋は、縁部を欠失し、つまみ部分に緑色釉が残存している。共伴遺物として、土師器・須恵器・瓦のほか、墨書土器・緑釉陶器・土馬・紡錘車(瓦の転用)・木皿・櫛・木簡・ヘラ状木製品・銭貨・獣骨等が出土している。この調査地は、長岡宮跡の東辺官衙に位置し、宮東限に近い。後に、北接地を調査した際^(注6)、流路の北西の延長とともに、宮の東限を画する溝かと思われる南北溝を検出している。なお、両調査で検出した流路の両岸には、橋かと思われる杭が打ち込まれている。

2の長岡京跡右京第10・28次調査^(注7)では、弥生時代や長岡京期・鎌倉時代の各種の遺構が

表1 長岡京跡多彩陶器出土地名表

	調査次数	所在地	器形	出土遺構	文献
1	宮内第87次	向日市森本町前田	二彩小壺 二彩小壺蓋	SD8701 (長岡宮内溝)	向日市埋蔵文化財調査報告書第5集
2	右京第10・28次	長岡京市東神足2丁目	二彩小壺	包含層	
3	右京第84次	長岡京市今里4丁目	二彩小壺蓋	SD1288 (古墳周濠)	京都府遺跡調査概報第3冊
4	右京第96次	長岡京市開田2丁目	三彩獣脚 三彩小壺2	SD9601 (五条大路北側溝)	長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集
5	左京第30次	向日市上植野町鴨田	二彩小壺	SD3001 (宅地内溝)	
6	左京第51次	向日市上植野町沢東	二彩片	SD1301 (宅地内溝)	向日市埋蔵文化財調査報告書第7集
7	左京第118次	向日市鶏冠井町十相森本町小柳	二彩小壺蓋	SD11806 (南一条条間大路南側溝)	京都府遺跡調査概報第15冊
8	左京第140次	京都市伏見区羽束師菱川町	二彩小壺蓋	包含層	
9	宮立会7812次	向日市寺戸町西野	二彩多嘴瓶 二彩杯	土 塚	向日市埋蔵文化財調査報告書第5集
10	表 探	向日市鶏冠井町大極殿	二彩(陶枕?)	大極殿跡付近表探	
11	大山崎町遺跡確認調査第2次	大山崎町円明寺夏目	二彩小壺	SD0202	大山崎町埋蔵文化財調査報告書第3集

(11は、長岡京跡外。9は、宝菩提院廃寺の関係。)



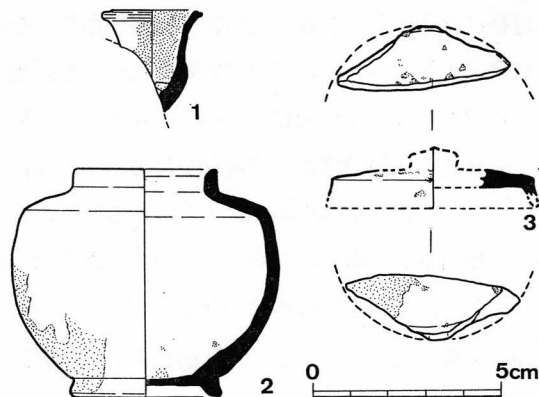
第3図 長岡京跡多彩陶器出土分布図(1/50,000)

検出され、そのうち長岡京期の遺構は、右京六条一坊三・四町域を占めるかなり高位の貴族の邸宅跡であると指摘されている。この調査では、報告のなかでは述べられてはいないが、二彩の小壺片が包含層から出土している。^(註8)

4の長岡京跡右京第96次調査では、五条大路北側溝(SD9601)から、三彩の小壺片と、器形は不明であるが、獸脚が出土している。獸脚は、外面に濃い綠色釉、内面にくすんだ白色の透明釉、ごく一部に褐釉が施されている。共伴遺物は、土師器と須恵器である。この調査地は、右京五条二坊十二町に当たり、近辺では数多くの建物跡が見つまっている。とりわけ、西接地である右京第11次調査地では、東西2間・南北9間の長大な掘立柱建物^(註10)

跡が検出されている。なお、この調査地近辺は、長岡京の西市の推定地^(注11)でもある。

5の左京第30次調査^(注12)では、左京四条二坊三町の宅地内溝から二彩の小壺が出土した。完形品ではないが、口縁部まで残存する。高台を有し、外面上半は、釉が失われているが、下半部では綠色釉と淡黄色の透明釉が施されているのが観察できる。内面にも、わずかではあるが綠色釉が残存する。高台の畳付けにも施釉されている。この調査では、長岡京期の建物跡も検出されている。



第4図 参考資料

- 1: 多嘴瓶 2: 小壺 3: 小壺蓋
 1: 宮立会7812次 2: 左京第30次 3: 左京第118次

6の左京第51次調査^(注13)では、左京第13・22次調査で検出した左京二条二坊六町内の宅地内溝(SD1301)の延長を検出し、その溝内から二彩陶器の破片が出土している。壺の体部片^(注14)と思われる。この溝からは、土師器・須恵器・瓦のほか、人形・斎串・刀形・鏃形・木簡・櫛・琴柱・木沓等の多量の木製品や、土馬・墨書土器・墨書人面土器・製塩土器、銭貨、獣骨等が共伴して出土している。

なお、このSD1301からは、太政官との関係を示す木簡や墨書土器が多く出土しており、近辺に太政官と関係した官衙施設^(注15)が存在したことを窺わせている。

7の長岡京跡左京第118次調査^(注16)では、南一条条間大路南側溝(SD11806)から、二彩小壺の蓋が出土した。縁部付近の小片で、外面は透明釉のなかにわずかに綠色釉が施され、内面には綠色釉と透明釉が認められる。素地は淡黄褐色を呈し、精良な胎土で、焼成は軟質である。この溝からは、土器類のほか木印等が出土している。この調査では、南一条条間大路の北の左京一条二坊十町の宅地に整然と並ぶ掘立柱建物跡や「内膳」・「厨」と記された墨書土器等^(注17)を検出した。官衙的色彩が強く感じられる。また、左京第130次調査^(注17)で、左京一条二坊十一町の推定地を調査し、南一条条間大路南側溝の延長を確認するとともに、掘立柱建物跡を検出した。また、溝内からは人形や建築部材名の記された木簡が出土している。

8の左京第140次調査^(注18)では、包含層から二彩の小壺蓋が出土している。また、墨書土器等の出土もある。長岡京期の遺構としては、掘立柱建物跡や井戸等が検出されている。

9の長岡宮跡立会調査^(注19)は、土塚から二彩の杯・多嘴瓶が出土したものである。共伴した

遺物には「寺」と記された墨書土器等があり、その年代も9世紀中葉頃のもので、宮跡内には位置するものの、この二彩陶器は宝菩提院廢寺と関係するものである。

10はかなり以前に大極殿付近で表採された資料で、二彩の陶枕の残欠と思われる。^(注20)

これらの資料のほか、京域外ではあるが、大山崎町の百々遺跡一大山崎町遺跡確認調査^(注21)2次(11)一で二彩の小壺が出土している。この百々遺跡は、平安時代前期の建物跡や柱穴等が検出されており、二彩小壺が出土したのは、東西方向に延びる溝で、柱穴や建物跡より先行し、8世紀末の年代が与えられている。この百々遺跡は、他の調査で木簡や金銅製の銚帯等が出土しており、官衙的色彩の強い遺跡である。^(注22)

4. 小 結

近年発掘調査の進展に伴い、多彩陶器の出土例も増え、畿内を中心に全国に分布する。その出土地は、やはり寺院が圧倒的に多く、そのほか官衙、祭祀遺跡、墳墓、住居・集落跡があり、住居・集落跡も大半は都城内の邸宅跡が占める。^(注23)このように、一部特権階級の権威の象徴としての持ち物を除けば、仏事・祭事に関連して多彩陶器は使用されている。

長岡京跡右京第84次調査で出土した二彩小壺蓋は、調査地の西方台地の上にある白鳳時代の古瓦が出土する乙訓寺との関連も考えられるが、長岡京の西二坊大路建設に伴い古墳の周濠を埋める際に、大がかりな祭祀を行っていることが前回調査で判明しており、^(注24)やはりこの小壺蓋も古墳の幽魂を慰める祭りに使用したものであろう。またその際に、葺石間に2個並べて安置されていた須恵器の鉢等も、ともに使われたものと考えられる。^(注25)

他の長岡京跡出土の多彩陶器について概観してみると、まず宮内第87次調査で出土した二彩陶器も、墨書人面土器や土馬、多数の獣骨の出土から、祭祀との関連が窺える。右京第95次調査での出土は、近辺が西市に比定されており、市と関連したものであろうか。ただ南側溝からは、土師器の壺B・小型壺・ミニチュア竈等の祭祀的な遺物も出土している。^(注26)左京第51次調査では、前述したように多量の祭祀遺物が共伴している。左京第118次調査地では、遺構・遺物から官衙的色彩が色濃く感じられるが、人形等の祭祀遺物も同じ溝から出土している。右京第10・28次調査地はかなり高位の人間の邸宅跡と考えられ、一部特権階級の所持品として存在したものであろう。また、左京第140次調査地は、近在に川原寺の地名が残り、宝菩提院廢寺出土例のほか、現時点でこの出土例のみが寺院との関連を窺わせる。^(注27)

長岡京跡から出土した多彩陶器は、長岡京廢都後になる宝菩提院廢寺出土の2点を除くと、11点中9点が小壺ないし小壺蓋である。その出土状況には、宮内第87次・右京第84次・左京第51次・左京第118次調査等祭祀遺物を共伴している例が目立ち、祭祀遺跡での出

土例に小壺が多いことなども考え合わせると、祭祀的な使用のされ方を感じさせられる。^(注28)
この長岡京での多彩陶器は、祭祀器具として使用されたものが多かったのではなからうか。
左京第51次調査での、多量の祭祀遺物と共伴しての二彩陶器片の出土例は、二彩そのものに呪術的意味合いを持たせていたように思わせる。

最後になったが、資料を集めるに当たって、向日市教育委員会の山中 章、渡辺 博、松崎俊郎、(財)長岡京市埋蔵文化財センターの山本輝雄、(財)京都市埋蔵文化財研究所の長宗繁一の各氏からは、情報の提供及び教示を受け、当調査研究センターの石尾政信調査員からは、右京第84次調査の事実関係について教示を得た。また、向日市教育委員会からは、遺物の実測図の提供をいただいた。末筆ながら、謝意を表したい。 <1986.3執筆>

(山口 博=当センター調査課主任調査員)

- 注1 石尾政信「長岡京跡第84次調査概要(7ANITT-6)」(『京都府遺跡調査概報』第3冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1982
- 注2 高橋美久二・奥村清一郎「長岡京跡昭和53年度発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報(1979)』京都府教育委員会) 1979
- 注3 高橋美久二・久保哲正・竹原一彦ほか「長岡京跡右京第26次発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報(1980-2)』京都府教育委員会) 1980
- 注4 注3に同じ
- 注5 山中 章「長岡宮跡第87次(7AN3A地区)発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第5集 向日市教育委員会) 1979
- 注6 久保田健士「長岡宮跡第125次発掘調査概要(7AN3B地区)」(『京都府遺跡調査概報』第8冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1983
- 注7 山本輝雄・久保哲正「長岡第9小学校建設にともなう発掘調査概要—長岡京跡右京第10・28次調査(7ANMMB地区)—」(『長岡京市文化財調査報告書』第5冊 長岡京市教育委員会) 1980
- 注8 (財)長岡京市埋蔵文化財センター調査員 山本輝雄氏のご教示による。
- 注9 木村泰彦・伊辻忠司「長岡京跡右京第96次調査概要(7ANKUT-4地区)」(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第1集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター) 1984
- 注10 戸原和人「産業文化会館建設にともなう発掘調査概要—長岡京跡右京第11次調査(7ANKUT地区)—」(『長岡京市文化財調査報告書』第5冊 長岡京市教育委員会) 1980
- 注11 中山修一「長岡京のあらし」(『長岡京』2号 長岡京跡発掘調査事業団) 1977
- 注12 向日市教育委員会 山中 章氏のご教示による。
- 注13 山中 章・清水みき「長岡京跡左京第51次(7ANESH-4地区)～左京二条二坊六町～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第7集 向日市教育委員会) 1981
- 注14 注12に同じ
- 注15 中山修一・高橋美久二・山中 章・中尾秀正・石尾政信・百瀬正恒・百瀬ちどり・徳丸始朗「長岡京跡左京第13次(7ANESH地区)発掘調査報告」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第4集 向日市教育委員会) 1978
- 注16 長谷川達・石尾政信・山口 博「長岡京跡左京第118次発掘調査概要(7ANDKG・EJS-3地区)」(『京都府遺跡調査概報』第15冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1985

- 注17 向日市教育委員会 松崎俊郎氏のご教示による。
- 注18 (財)京都市埋蔵文化財研究所調査員 長宗繁一氏のご教示による。
- 注19 山中 章・丸 嘉樹・藤田さかえ「長岡宮(京)跡立会調査概要」(『向日市埋蔵文化財報告書』第5集 向日市教育委員会) 1979
- 注20 向日市教育委員会 渡辺 博氏のご教示による。
- 注21 林 亨「大山崎町遺跡範囲確認調査2次」(『大山崎町埋蔵文化財報告書』第3集 大山崎町教育委員会) 1982
- 注22 「長岡京跡右京第159次調査現地説明会資料」大山崎町教育委員会 1984
- 注23 巽淳一郎「陶磁(原始・古代編)」(『日本の美術』235号 至文堂) 1980 の「全国奈良三彩出土地名表」による。
- 注24 梅原末治「乙訓寺礎石及古瓦」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第1冊 京都府) 1919
- 注25 注2に同じ
- 注26 長岡宮跡第125次調査で検出したSD8701の延長部分で出土。
- 注27 注9に同じ
- 注28 注23に同じ

<追 記>

本稿執筆後、右京第202次調査地一長岡京市今里四丁目235-1一の包含層からも二彩小壺片が出土しているのご教示を(財)長岡京市埋蔵文化財センター原秀樹氏から受けた。本文中では、長岡京跡内からの多彩陶器出土例を10件、14点と記したが、11件、15点と訂正する。